

読者の声を募集！

読者の声を募集致します。ふるってご投稿をお願いします。

また、取り上げて欲しい特集、連載講座、土木用語、論説や報文の内容に関する質問、現場で困っている点、さらに、土技資の改革についてのご意見や要望などをホームページ又はメールでお送り下さい。

URL：https://www.pwrc.or.jp

E-mail：dokusha(a)pwrc.or.jp （※メールを送信する場合は(a)を@と変更して下さい。）

購読の案内

月刊 土木技術資料の購読のご案内をいたします。

＜購 読 料＞ 土木技術資料 1冊 定価 ￥ 1,320(本体1,200+税10%・送料共込)

年間購読料 ￥15,840(税10%・送料共込)

月刊土木技術資料購読申込書		
(いずれかに ☒ を付けてください) ☐ 団体購読 ☐ 個人購読		
(いずれかに ☒ を付けてください) ☐ 年間購読 年 月号より 部		
☐ 特定号のみ 年 月号 部		
お 届 け 先	ご 住 所	〒
	お名前または会社名	
	所属部署(会社の場合)	
	担当者名(会社の場合)	
	TEL / FAX	/
	E-mail	
※購読料の請求宛先がお届け先と異なる場合は、請求宛先を下欄にご記入ください。		
請 求 宛 先		

ご購入中の方でお申し込み内容に変更が生じた方も、ご連絡ください。

月刊土木技術資料のお問い合わせ・お申し込み先

一般財団法人土木研究センター 技術研究所 庶務・広報部 池田

〒300-2624 茨城県つくば市西沢2-2

TEL：029-864-2521 FAX：029-864-2515

E-mail：mail(a)pwrc.or.jp （※メールを送信する場合は(a)を@と変更して下さい。）

購読のお申し込みは、FAXまたはE-mailをお願いします。

また、土木研究センターのホームページ（URL：https://www.pwrc.or.jp）からも直接申し込みできます。

なお、代金は原則前払いとなっておりますが、後払いも可能です。

お知らせのページ

国立研究開発法人土木研究所

土研 新技術ショーケース2025 in 東京の開催について

土研新技術ショーケースは、土木研究所の研究開発成果のうち、現場での工事や各種の業務において適用効果の高い新技術について、社会資本の整備や管理に携わる幅広い技術者を対象に情報発信、相談対応（会場のみ）します。今回のショーケースでは、「環境DNA」を重点的に紹介するとともに、土木研究所が運営支援法人として技術支援（伴走支援）しているSBIR フェーズ3基金事業で開発中の10企業の技術も紹介します。

開催日：令和7年9月25日（木）

場 所：一橋講堂（〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター2F）

主 催：国立研究開発法人 土木研究所

後 援：国土交通省、（一社）建設コンサルタンツ協会、（一社）日本建設業連合会（調整中）、（一社）全国建設業協会、（一社）全国測量設計業協会連合会、（公社）土木学会

講演会プログラム ※プログラムの演題、発表時間等は変更となる可能性があります。

10:00～10:15 開会挨拶 国立研究開発法人 土木研究所 理事長 藤田 光一

10:15～10:45 <国土交通省からの講演>

「インフラ分野の新技術活用、DXの推進について（仮）」

国土交通省（調整中）

10:45～12:00 展示技術のインデクシング（1技術約3分で概要を説明）

・土木研究所の開発技術 14技術

・SBIRフェーズ3事業の技術 10技術

13:00～14:30 【展示会場】展示技術紹介

（web聴講者は代表技術を動画でご覧いただきます）

14:40～15:10 <国土交通省からの講演>

「最近の河川環境行政の動向（仮）」

国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課 河川環境調整官 藤本 雄介

15:10～15:50 <技術講演>

「環境DNA 河川管理への実装と今後の展開」

国立研究開発法人 土木研究所 流域生態チーム 特任研究員 村岡 敬子

15:50～16:00 閉会挨拶 国立研究開発法人 土木研究所 技術推進本部長 川俣 裕行

展示技術

①環境DNAを活用した環境情報の高度化

②建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル

③プレキャストコンクリートへの再生粗骨材Mの有効利用に係わるガイドライン

④低燃費舗装

⑤BSC工法（浸食防止及び植生の自然侵入促進をはかる土壌藻類資材）

⑥碎石とジオテキスタイルを用いた低コスト地盤改良技術（グラベル基礎補強工法）

⑦衝撃加速度試験装置を用いた盛土および石灰・セメント改良盛土の品質改良技術

⑧既設アンカー緊張力モニタリングシステム

⑨写真計測技術を活用した斜面点検手法

⑩橋梁診断支援AIシステム

⑪Reライニング工法（トンネル覆工更新技術）

⑫降雨流出氾濫（RRI）解析モデル

⑬3D浸水ハザードマップ作成技術

⑭ダム非常用洪水吐きの新技術

⑮～⑳土木研究所が運営支援法人として支援しているSBIRフェーズ3基金事業企業の技術

※ 土木学会CPD認定プログラム（申請中）、全国土木施工管理技士会連合会CPDS認定プログラム（申請中）

※ 参加費：無料・途中退室自由（CPD、CPDS希望者除く）

※ 詳細、お申し込みは土木研究所ホームページ（<https://www.pwri.go.jp>）をご覧ください。

問 い 合 わ せ 先

つくば中央研究所 技術推進本部

電話 080-9551-7747 （受付時間 9:00-12:00 13:00-17:00）

令和7年度土木研究所講演会を開催 持続可能な社会を支える土研の挑戦 ～注目の成果を紹介～

土木研究所では、下記のとおり令和7年度土木研究所講演会を開催します。
本講演会は、前半「土研のイチオシ!」、後半「スマートで持続可能な社会資本管理への貢献」をテーマに、当所における研究成果や最近の土木技術に関する話題・動向について、土木研究所を牽引する研究者からの講演及びポスターセッションを行います。加えて、特別講演として立命館大学 教授 建山 和由 氏から「建設改革とイノベーション」と題してご講演いただきます。

さらに、講演内容に対する理解をより一層深めていただくために質問タイムを設けております。
多くの皆様のご参加をお待ちしております。

記

- 1 主 催：国立研究開発法人土木研究所
- 2 後 援：国土交通省/ 公益社団法人土木学会/ 一般社団法人建設コンサルタント協会/
一般社団法人全国建設業協会/一般社団法人日本建設業連合会/
一般財団法人土木研究センター
- 3 日 時：令和7年10月17日（金）10：00～16：35（受付開始 9:30）
- 4 場 所：一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋2-1-2）
- 5 参加費：無料
・ 本講演会への参加は、原則、事前申込みをされた方のみとさせていただきます。
・ Youtubeによるライブ配信を実施します。詳細は、土木研究所ホームページをご確認ください。
- 6 プログラム：（注：プログラムの詳細は、土木研究所ホームページをご確認ください。）

10:00～10:10 開会挨拶・概要説明
理事長 藤田 光一

◆ 講演（土研のイチオシ!）

10:10～10:35 「道路舗装再生にナノ分析法を適用し、日本の道路を守る」
材料資源研究グループ 上席研究員 百武 壮

10:35～11:00 「大規模観測×先端シミュレーションで読み解く気候変動時代の河川水リスク
～渇水・高水温予測と適応策～」
寒地水圏研究グループ 研究員 星野 剛

(11:00～11:10 休憩)

11:10～11:35 「川底の変化を前提に、暮らしと水辺環境を守る川づくり
～河道の二極化対策の研究～」
河道保全研究グループ グループ長 板垣 修

11:35～12:00 「「災害のジブンゴト化」に向けた仮想洪水体験システムの取り組み」
水災害研究グループ 上席研究員 栗林 大輔

12:00～12:25 「ネイチャーポジティブ実現に向けた河川環境の定量評価
～物理環境と生物種をつなぐモデリング技術～」
流域水環境研究グループ 上席研究員 田中 孝幸

(12:25～13:30 昼休み・ポスターセッション（同会場2階））

◆ 特別講演

13:30～14:00 「建設改革とイノベーション」
立命館大学 教授 建山 和由

(14:00～14:05 休憩)

◆ 講演（スマートで持続可能な社会資本の管理への貢献）

14:05～14:30 「ここまできた！最先端技術を活用した生産性向上」
技術推進本部 上席研究員 橋本 毅

14:30～14:55 「コンマミリレベルの路面の動的変位を走行しながら測る！
～次世代の舗装点検・診断技術への新たな挑戦～」
道路技術研究グループ 上席研究員 渡邊 一弘

(14:55～15:05 休憩)

15:05～15:30 「寒冷地の舗装を守る ～凍結融解・凍上損傷への対応技術の最前線～」
寒地保全技術研究グループ 上席研究員 丸山 記美雄

15:30～15:55 「構造物の予防保全型メンテナンスの推進
～早期発見・早期治療のための技術～」

橋梁構造研究グループ グループ長 石田 雅博

(15:55～16:05 準備)

◆ 質問タイム

16:05～16:25 質疑応答（スマートで持続可能な社会資本の管理への貢献）

16:25～16:35 閉会挨拶

理事・寒地土木研究所長 井上 勝伸

(敬称略)

7 お申込み：

下記のウェブページ（「令和7年度土木研究所講演会」と検索）において、事前申込みを予定しています。（現在、ページ作成中です。）

こちらからもアクセスできます。



<https://www.pwri.go.jp/jpn/about/pr/event/2025/1017/index.html>

※ ご提供いただいた個人情報、適正に管理させていただくとともに、国立研究開発法人土木研究所が主催する講演会等のご案内以外の目的には使用しません。

8 お問合せ先：

令和7年度土木研究所講演会運営事務局

1. 講演会申込・配信関係

<株式会社ディーワークス>

TEL: 03-5835-0388 FAX: 03-5835-0296

MAIL: doboku2025@d-wks.net

2. 1以外のお問合せ

<国立研究開発法人土木研究所 企画部 研究企画課>

土木研究所講演会担当

TEL: 029-879-6751 FAX: 029-879-6752

MAIL: kikaku@pwri.go.jp

9 CPDプログラム：本講演会は、土木学会のCPDプログラム認定済みです。

※CPDにかかる受講証明書は、1日参加の方にのみ後日送付します。

○会場参加の方

引換券は当日の受付時に配布致します。講演会終了後に受付に設置した引換券回収箱にご提出ください。講演会終了前にご提出いただいた場合は発行できません。

○オンライン参加の方

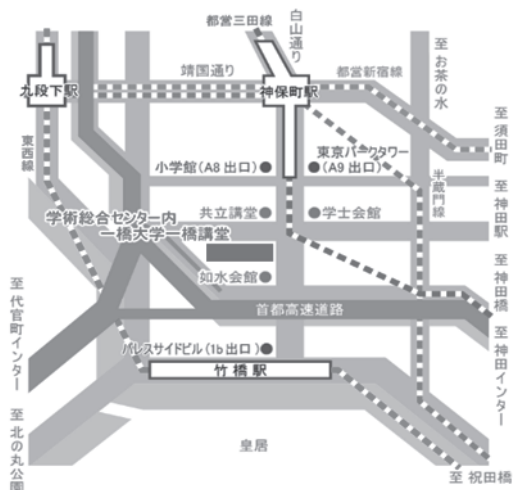
YouTubeによるライブ配信の視聴にて参加された方に、受講後のアンケート（講演後、アンケートフォームURLを送付します）において、受講して得られた所見（学びや気づき）を、100字以上で記載してご提出いただくことが、CPDに係る受講証明書のための条件となります。

会場：一橋講堂

住所：〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

地図URL：<https://www.hit-u.ac.jp/hall/accessjp.html>

【地図】



【下車駅】

- ・ 東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅（A8・A9 出口）徒歩4分
- ・ 東京メトロ東西線 竹橋駅（1b 出口）徒歩4分

令和8年度国立研究開発法人土木研究所交流研究員の受入れについて

本制度は、国内の他機関に所属する職員等を土木研究所に受け入れ、研究活動を通じた人材育成や知見の共有を図ることで、土木技術水準の向上および、土木研究所と派遣元機関双方の業務の高度化に資することを目的としております。受入れ後は、土木研究所が提示する受入れ課題に基づき、研究業務に従事していただきます。研究活動を通じて、以下のような経験を得ることが可能です。

- ・学会等で研究成果を発表する機会がある
- ・土木研究所が実施する現場の技術指導や調査等に同行できる場合がある
- ・自己研鑽を通じて、技術士資格や学位の取得をされた方もいる

土木研究所の研究者とともに課題に取り組む中で、実践的な研究能力や新たな視点を養うことが期待されます。

申請手続きおよび受入れ可能な課題については、下記をご参照ください。

記

1. 受入れ開始日 令和8年4月1日以降
2. 受入れ期間 6ヶ月以上・2年以下（最長3年まで延長する場合有り）
3. 申請締切日 令和7年12月12日（金）17:00まで（必着）
4. 応募資格 経験年数4年以上（修士の場合2年以上）の職員を対象とします。
5. 受入れ課題 「令和8年度交流研究員受入れ課題一覧」のとおり。
6. 受入れ費用 受入れに要する費用（給与、旅費等）は申請機関の負担とします。
7. 申請 ホームページに掲載している以下の書類に必要事項を記入のうえ申請願います。
 - ・交流研究員受入れ申請書
 - ・交流研究員人事記録

<https://www.pwri.go.jp/jpn/employ/ukeire/index.html#06>
 ※申請書類にご記入頂いた個人情報については、交流研究員受入れ事務以外の目的で使用することはございません。
 ※国立研究開発法人土木研究所交流研究員受入れ規程
 国立研究開発法人土木研究所交流研究員受入れ取扱要領
<https://www.pwri.go.jp/jpn/employ/ukeire/pdf/kouryuu.pdf>
8. その他
 - ・受入れ決定は1月中旬頃の予定
 - ・受入れ課題名等は現時点での予定のため変更になる場合があります。
 - ・一つの研究チームに希望者が集中した場合等は、チームの指導可能人数や交流研究員制度の趣旨を踏まえ、調整させていただく場合があります。
 - ・民間会社等から交流研究員を受入れた場合、交流研究員の申請機関は受入れチーム等（上席研究員単位で判断）における契約の相手方となることができません。このため、受入れチーム等における業務発注等の入札等に参加できませんので予めご了承ください。（受入れ期間中のみ）
 - ・受入れ開始日は令和8年4月1日からとしていますが、4月以降で受入れを希望される場合は個別にご相談ください。
9. 提出・問合せ先 国立研究開発法人土木研究所 企画部研究企画課
 交流研究員受入担当
 〒305-8516 茨城県つくば市南原1番地6
 TEL：029-879-6751 FAX：029-879-6752
 URL：<https://www.pwri.go.jp/>

令和8年度交流研究員受入れ課題一覧

別紙

番号	受入れ部署		課 題 名
	局・部・グループ	チーム・班・担当	
1	戦略的イノベーション 研究推進事務局	戦略的イノベーション 研究推進事務局 (勤務先：東京都千代田 区神田相生町1秋葉原セ ンタープライスビル4F)	SIP スマートインフラマネジメントシステムの構築に関するプロジェ クトマネジメント
2	技術推進本部	先端技術	自動施工に関する技術開発（自律施工技術基盤「OPERA」の開発含 む）と、現場適用に関する研究
3	技術推進本部	先端技術	災害対応に用いる無人化施工の高度化に関する研究
4	技術推進本部	先端技術	土木機械設備に関する維持管理の効率化・高度化に関する研究
5	技術推進本部	先端技術	土木機械設備に関する信頼性向上及び遠隔化・自動化・集中管理に関 する研究
6	技術推進本部	先端技術	インフラ管理システムの高度化に関する研究
7	地質・地盤	地質	自然由来重金属等含有岩石の有効利用に関する研究
8	地質・地盤	地質	道路斜面災害危険箇所の抽出・評価手法に関する研究
9	地質・地盤	地質	地質・地盤リスクマネジメントに関する研究
10	地質・地盤	地質	ダム等の岩盤評価に関する研究
11	地質・地盤	地質	貯水池地すべりの安定性評価に関する研究
12	地質・地盤	地質	道路盛土や河川堤防の内部構造探査に関する研究
13	地質・地盤	地質	物理探査による斜面、盛土および土木構造物内部の地下水および剛性 の把握に関する研究
14	地質・地盤	地質	物理探査による舗装道路およびコンクリート構造物内部の水分分布の 把握に関する研究
15	地質・地盤	土質・振動	河川構造物の越流・浸透・耐震・維持管理に関する研究
16	地質・地盤	土質・振動	切土のり面における地質・地盤リスクマネジメントに関する技術開発
17	地質・地盤	土質・振動	高品質な盛土の整備・効率的な点検技術に関する技術開発
18	地質・地盤	土質・振動	液状化に関する地盤調査法および構造物への影響評価法に関する研究
19	地質・地盤	施工技術	道路の擁壁、補強土壁等の調査、設計、施工、維持管理の手法に関す る研究
20	地質・地盤	施工技術	道路排水施設の設計、施工、維持管理手法に関する研究
21	地質・地盤	施工技術	デジタル技術の活用による盛土材料の変化の客観的評価手法に関する 研究
22	地質・地盤	施工技術	軟弱地盤対策等における調査、設計、施工、維持管理手法に関する研究
23	地質・地盤	施工技術	グラウンドアンカーの特性を考慮した維持管理手法に関する研究
24	地質・地盤	施工技術	道路土工構造物の不確実性を考慮したマネジメント手法に関する研究
25	流域水環境	流域生態	河川管理の現場における環境 DNA の高度利用および技術の標準化に 関する研究
26	流域水環境	流域生態	生態系ネットワークを考慮した流域環境の保全手法に関する研究
27	流域水環境	流域生態	治水と環境の両立した河道計画・設計に関する研究
28	流域水環境	流域生態	魅力ある持続的な水辺空間形成に関する研究
29	流域水環境	流域生態	グリーンインフラの評価手法に関する研究
30	流域水環境研究グループ	水質チーム	水環境中の化学物質のモニタリング手法の効率化に関する研究
31	流域水環境研究グループ	水質チーム	水環境中のウイルス等の病原微生物の監視・制御技術に関する研究
32	流域水環境研究グループ	水質チーム	水環境監視における画像解析技術、リモートセンシング、ドローン等 の活用に関する研究
33	流域水環境研究グループ	水質チーム	流域規模での栄養塩管理技術に関する研究
34	流域水環境研究グループ	水質チーム	水環境中の新規汚染物質の影響把握および低減技術に関する研究
35	流域水環境研究グループ	水質チーム	AI 技術や次世代シーケンサーを活用した水質測定・評価の高度化に 関する研究
36	流域水環境	自然共生研究センター (勤務先：岐阜県各務原市 川島笠田町官有地無番地)	河川における環境目標の設定と実現に向けた予測技術の開発に関する 研究

番号	受入れ部署		課 題 名
	局・部・グループ	チーム・班・担当	
37	流域水環境	自然共生研究センター	気候変動を見据えた流量の変動管理手法に関する研究
38	流域水環境	自然共生研究センター	半自動化による河道設計の迅速化に関する技術開発
39	流域水環境	自然共生研究センター	ダム下流における流量変化が付着藻類・底生動物・魚類に及ぼす影響の予測技術に関する研究
40	流域水環境	自然共生研究センター	河川景観に馴染む護岸ブロックの評価手法に関する技術開発
41	流域水環境	自然共生研究センター	流域総合水管理に資する生物多様性の評価とグリーンインフラの導入に関する研究
42	流域水環境	自然共生研究センター	河川地形データを活用した河川環境の評価手法の開発に関する研究
43	河道保全	水工	ダム貯水地内堆砂管理手法の開発
44	河道保全	水工	ダム水理構造物の設計における3次元数値解析活用手法に関する研究
45	河道保全	河道監視・水文	洪水流量の推定技術に関する研究
46	河道保全	河道監視・水文	流出解析の高精度化に関する研究
47	河道保全	河道監視・水文	流量観測の高精度化に関する研究
48	土砂管理	火山・土石流	大規模噴火による長期にわたる広域降灰時の土石流影響評価に関する研究
49	土砂管理	火山・土石流	火砕物の堆積厚が斜面の浸透能に及ぼす影響に関する研究
50	土砂管理	火山・土石流	砂防施設の致命的な損傷対策手法に関する研究
51	土砂管理	地すべり	人的被害をもたらす崩壊性地すべりの予測手法に関する研究
52	土砂管理	地すべり	変位速度を指標とする地すべり対策計画手法に関する研究
53	土砂管理	地すべり	地すべり防止施設の要求性能及び性能指標に関する研究
54	道路技術	舗装	舗装構造の健全性に着目した点検技術の信頼性向上に関する研究
55	道路技術	舗装	舗装の損傷原因に応じた長寿命設計・更新技術に関する研究
56	道路技術	舗装	アスファルト舗装における理論的構造設計手法の現場実装に向けた研究
57	道路技術	舗装	脱炭素社会の実現に向けたアスファルト舗装代替材料の開発
58	道路技術	舗装	社会構造の変化に対応した新しい舗装再生技術の開発
59	道路技術	舗装	コンクリート舗装の長寿命化に向けた目地部等の設計法の合理化に関する研究
60	道路技術	トンネル	既設トンネルの補修・補強工法の耐荷力特性等の評価手法に関する研究
61	道路技術	トンネル	シールドトンネルの点群データ等を活用した合理的な維持管理に関する研究
62	道路技術	トンネル	山岳トンネルの不良地山の対策工法の設計・施工に関する研究
63	道路技術	トンネル	既設トンネルの変状を診断するエキスパートシステム構築に関する研究
64	道路技術	トンネル	山岳トンネルの施工時データを活用した合理的な診断に関する研究
65	道路技術	トンネル	山岳トンネルの支保部材の設計手法に関する研究
66	道路技術	トンネル	山岳トンネルの地山評価手法の合理化に関する研究
67	水災害	リスクマネジメント	民間企業における防災投資促進のためのリスクコミュニケーション手法の開発
68	水災害	リスクマネジメント	仮想洪水体験システムを用いたリスクコミュニケーション手法の開発
69	水災害	リスクマネジメント	不確実性を付した洪水予測情報発信手法の開発
70	水災害	リスクマネジメント	海外における気候変動適応策および水災害レジリエンス強化策の実装
71	水災害	ハザード	流域治水の計画策定支援技術の開発
72	水災害	ハザード	洪水予測に基づく既設ダム等の治水機能の強化・発現技術の開発
73	水災害	ハザード	中山間地中小河川、土砂・流木・洪水氾濫、ハザード評価手法の開発
74	橋梁構造	基礎班	橋台及びアプローチ部の耐震性強化技術に関する研究
75	橋梁構造	基礎班	地盤改良工法の要求性能に対する評価手法に関する研究
76	橋梁構造	基礎班	多様な現場条件に対応した道路橋基礎の耐震補強技術に関する研究
77	橋梁構造	基礎班	河川洗掘に対応した橋梁下部構造の予防保全型メンテナンスに関する研究
78	橋梁構造	耐震班	リスクマネジメントに基づく道路橋のレジリエンス技術に関する研究
79	橋梁構造	耐震班	設置条件を踏まえた制震ダンパーの評価手法に関する研究

番号	受入れ部署		課 題 名
	局・部・グループ	チーム・班・担当	
80	橋梁構造	耐震班	地震後の道路橋の緊急措置判断に資する生成 AI の開発
81	橋梁構造	耐震班	鋼製支承の予防保全型メンテナンスに関する研究
82	橋梁構造	耐震班	損傷制御を考慮した橋梁の耐震補強方法に関する研究
83	橋梁構造	耐震班	実大積層ゴム支承の耐震性能評価方法に関する研究
84	橋梁構造	耐震班	上部構造の塑性化を考慮した耐震設計法に関する研究
85	橋梁構造	耐震班	マルチハザードを想定した道路橋の耐震設計法に関する研究
86	橋梁構造	鋼橋班	3次元挙動を考慮した信頼性の高い新設橋の設計手法の開発に関する研究
87	橋梁構造	鋼橋班	異種材料を用いた鋼橋の合理的な性能回復技術に関する研究
88	橋梁構造	鋼橋班	鋼橋の予防保全型メンテナンスに向けた点検の高度化・省力化に関する研究
89	橋梁構造	鋼橋班	環境作用及び持続荷重を受ける鋼部材の耐久性設計の部分係数化に関する研究
90	橋梁構造	鋼橋班	診断 AI システムの構築と診断の信頼性向上に関する研究
91	橋梁構造	コンクリート班	コンクリート橋の塩害に対する予防保全型メンテナンスに関する研究
92	橋梁構造	コンクリート班	RC 床版の土砂化に対する予防保全型メンテナンスに関する研究
93	橋梁構造	コンクリート班	塩害による損傷を受けたコンクリート橋の外ケーブル工法による補強設計法に関する研究
94	橋梁構造	コンクリート班	コンクリート橋の桁端部の予防保全的塩害対策に関する研究
95	材料資源	先端材料・高度化担当	舗装用アスファルトの代替材料に関する研究
96	材料資源	先端材料・高度化担当	社会構造の変化に対応した舗装再生技術に関する研究
97	材料資源	先端材料・高度化担当	舗装の水浸破損対策の工法・材料に関する研究
98	材料資源	先端材料・高度化担当	コンクリート構造物の補修・補強材料に関する研究
99	材料資源	先端材料・高度化担当	橋梁の新しい防食塗料に関する研究
100	材料資源	先端材料・高度化担当	環境作用を受ける鋼橋防食材料の耐久性設計に関する研究
101	材料資源	資源循環担当	下水道材料の劣化メカニズム及び耐久性評価に関する研究
102	材料資源	資源循環担当	下水処理場における有機資源活用の拡大及び脱炭素化手法に関する研究
103	材料資源	汎用材料担当	低炭素型コンクリートの長期物性評価に関する研究
104	材料資源	汎用材料担当	コンクリート工の品質管理省力化に関する研究
105	材料資源	汎用材料担当	コンクリート構造物の予防保全型メンテナンスに関する研究
106	材料資源	汎用材料担当	樋門等河川構造物のメンテナンスサイクル構築に関する研究
107	材料資源	汎用材料担当	コンクリートの土砂や水流によるすり減りに関する研究

募集課題 合計107課題

お知らせ のページ

PWRC 一般財団法人 土木研究センター
★インターネット ホームページ
<https://www.pwrc.or.jp>

当センターまたは月刊「土木技術資料」に関するご意見・ご要望等は、下記メールアドレスにお送りください。
mail(a)pwrc.or.jp（※メールを送信する場合は(a)を@と変更して下さい。）

「2025年度 建設技術審査証明 新技術展示会」のご案内

「建設技術審査証明事業」は、新しい建設技術の活用促進に寄与することを目的として、民間において自主的に研究・開発された新技術について、民間からの依頼に基づき、新技術の技術内容を権威ある学識経験者等により技術審査を行い、その内容を客観的に証明して、普及活動に努める事業です。

建設技術審査証明協議会では、会員が実施する建設技術審査証明事業にて審査証明書を交付した各分野の優れた建設技術について、国、地方公共団体、民間企業等の方々に広く紹介するために、「2025年度建設技術審査証明 新技術展示会」を開催いたしますので、関係者の多数のご参加をお待ちしております。

本新技術展示会は、国立研究開発法人土木研究所が主催する「土研新技術ショーケース 2025 in 東京」と同会場で開催いたします。

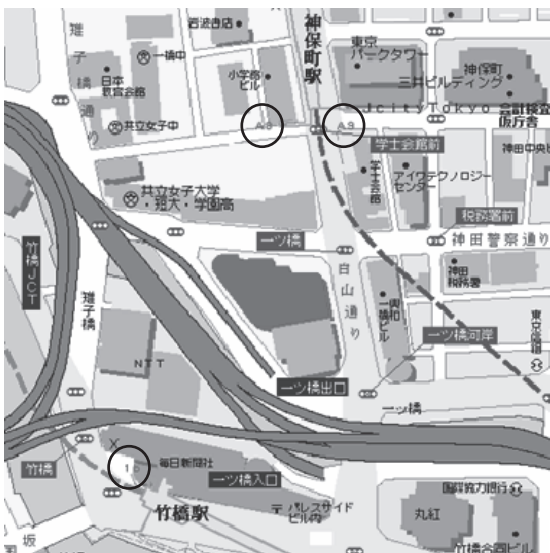
「2025年度 建設技術審査証明 新技術展示会」の概要

開催日時：2025 年9月25 日（木） 10：00～17：00（予定）

開催会場：一橋大学「一橋講堂」

（東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内）

【会場へのアクセス】



- ・「神保町駅」 東京メトロ 半蔵門線
都営 三田線、新宿線 （A8・A9出口 徒歩4分）
- ・「竹橋駅」 東京メトロ 東西線 （1b出口 徒歩4分）

- お車でいらっしゃる方
会場には駐車場はございません。近隣の駐車場をご利用ください。

一橋講堂HP

<https://www.hit-u.ac.jp/hall/index.html>

会場へのアクセス

<https://www.hit-u.ac.jp/hall/accessjp.html>

※ご注意ください

日本教育会館「一橋ホール」は別の施設です。

参 加 料：無料

主 催：建設技術審査証明協議会（当センターを含む14団体）

内 容：建設技術審査証明協議会の会員である14団体において、概ね2024年8月～2025年7月の間に審査証明書を交付した技術（当センターで交付した26技術を含む155技術）のうち、新技術展示会に参加を希望された企業による38技術のパネル展示、およびプレゼンテーションが行われる予定です。詳細については、建設技術審査証明協議会ホームページ（<https://www.jacic.or.jp/sinsa/shinsa25/index.html>）をご覧ください。

【展示会に関する問合せ先】

一般財団法人土木研究センター（建設技術審査証明協議会会員）

担当：企画・審査部 平石 知仁

〒110-0016 東京都台東区台東1-6-4 タカラビル3階

TEL：03-3835-3609

E-mail：kikaku(a)pwrc.or.jp（※メールを送信する場合は(a)を@と変更して下さい。）

一般財団法人土木研究センターにおいて、概ね2024年8月～2025年7月に審査証明書を交付（新規、内容変更、更新）した26技術のうち、以下の9技術についてパネル展示およびプレゼンテーションが行われます。

- (1) 技術名称：セメントレスプレキャスト製品用コンクリート「e-CON」
依 頼 者：東京都下水道サービス株式会社、日本ヒューム株式会社
技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19615>
- (2) 技術名称：補強土壁工法「T U S S 工法」
依 頼 者：日本コンクリート工業株式会社、強化土エンジニアリング株式会社、ティーシートレーディング株式会社、太平洋セメント株式会社
技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19646>
- (3) 技術名称：可撓性を有するもたれ式擁壁「箱型擁壁」
依 頼 者：株式会社箱型擁壁研究所、昭和コンクリート工業株式会社
技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19553>
- (4) 技術名称：機械式定着具を用いた高強度せん断補強鉄筋「ナットバー」
依 頼 者：株式会社大林組
技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19566>
- (5) 技術名称：プレート定着型機械式定着鉄筋「H e a d - b a r」
依 頼 者：大成建設株式会社、V S L J A P A N株式会社
技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19612>
- (6) 技術名称：プレキャストP C部材組立式雨水貯留施設「エコマモール」
依 頼 者：川田建設株式会社
技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19611>
- (7) 技術名称：超速硬化ポリウレタン樹脂吹付塗膜防水材「S Q S 防水材」
依 頼 者：株式会社サーフェステクノロジー、みらい建設工業株式会社、シーカ・ジャパン株式会社
技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19619>
- (8) 技術名称：エポキシ樹脂全素線塗装型P C鋼より線「S C ストランド」
依 頼 者：黒沢建設株式会社
技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19631>
- (9) 技術名称：機械式鉄筋継手「O S フープクリップ」
依 頼 者：岡部株式会社
技術概要：<https://www.jacic.or.jp/jacic-hp/node/19625>

土木研究センター刊行物一覧

刊 行 物 名	発行年月	判型	頁	定価（10%税込）		送料
				一般	賛助会員	
「耐候性大型土のう積層工法」設計・施工マニュアル【第2回改訂版】	R5.5	A4	125	1,980	1,782	別
陸上工事における深層混合処理工法 設計・施工マニュアル【増補版】	R4.4	A5	342	4,950	4,455	別
BEACHES IN OKINAWA AND RECENT CHANGES,SECOND EDITION	R3.7	A4	455	8,800	7,920	別
「ハイビーウォール」設計・施工マニュアル	R3.3	A5	299	4,730	4,257	別
土木技術者のためのプロフェッショナルの姿勢と視点	R2.6	B5	237	2,200	1,980	別
土工構造物の性能の評価と向上の実務	R1.8	A4	316	3,850	3,465	別
のり面表層保護工「GTフレーム工法®」設計・施工マニュアル 改訂版	H30.11	A4	125	2,640	2,376	別
山留め式擁壁「親杭パネル壁」設計・施工マニュアル 改訂版	H29.11	A4	160	2,420	2,178	別
のり面保護用連続繊維補強土 「ジオファイバー工法」設計・施工 マニュアル 改訂版	H29.6	A4	78	2,420	2,178	別
「箱型擁壁」工法 設計・施工マニュアル	H28.7	A4	109	2,750	2,475	別
鉄鋼スラグ路盤設計施工指針	H27.3	A4	110	3,300	2,970	別
「ラブルネット積層工法」設計・施工マニュアル	H27.1	A4	114	2,090	1,881	別
アダムウォール（補強土壁）工法 設計・施工マニュアル	H26.12	A5	330	4,730	4,257	別
盛土の性能評価と強化・補強の実務	H26.10	A4	228	3,300	2,970	別
補強土（テールアルメ）壁工法 設計・施工マニュアル （第4回改訂版）	H26.8	A5	477	5,500	4,950	別
多数アンカー式補強土壁工法設計・施工マニュアル 第4版	H26.8	A5	397	5,280	4,752	別
「海岸侵食の実態と解決策」宇多高明著 CD-ROM版	H26.6	—	304	3,850	3,465	別
ジオテキスタイルを用いた補強土の設計・施工マニュアル（第2回改訂版）	H25.12	A5	457	6,050	5,445	別
建設発生土利用技術マニュアル（第4版）	H25.12	A5	204	2,200	1,980	別
わが国の免震橋事例集 （特別価格）	H23.12	A4	247	942	848	別
道路橋の免震・制震設計法マニュアル（案） （特別価格）	H23.12	A4	288	1,257	1,131	別
全素線塗装型PC鋼より線を使用したPC構造物の設計・施工ガイドライン	H22.3	A4	162	3,300	2,970	別
ジオテキスタイルを用いた軟弱路床上舗装の設計・施工マニュアル — 路床／路盤分離材としての利用 — （特別価格）	H21.11	A4	122	1,650	1,485	別
建設工事で遭遇する廃棄物混じり土対応マニュアル	H21.10	B5	113	4,400	3,960	別
落橋防止構造設計ガイドライン（案）	H17.7	A4	73	4,191	3,771	別
土木コンクリート構造物のはく落防止用 赤外線サーモグラフィによる変状調査マニュアル	H17.3	A4	108	4,713	4,242	込
グラウンドアンカー受圧板設計・試験マニュアル	H16.12	A4	83	3,300	2,970	別
超早強コンクリート利用技術マニュアル	H12.9	A5	80	3,300	2,970	別
発生土利用促進のための改良工法マニュアル	H9.12	A4	177	4,400	3,960	別
熱赤外線映像法による吹付のり面老朽化診断マニュアル	H8.1	A4	125	4,273	3,846	込
コンクリートの耐久性向上技術の開発	H1.5	A4	438	8,380	7,542	込

刊行物の斡旋

鹿島出版会・大成出版社刊行物

刊 行 物 名	発行年月	判型	頁	定価（10%税込）		送料
				一般	賛助会員	
建設工事で発生する自然由来重金属等含有土対応ハンドブック	H27.3	A4	101	2,200	1,980	別
建設工事で遭遇する地盤汚染対応マニュアル〔改訂版〕	H24.4	B5	160	2,640	2,376	別
建設工事で遭遇するダイオキシン類汚染土壌対応マニュアル〔暫定版〕	H17.12	B5	128	2,420	2,178	別
土壌のダイオキシン類簡易測定法マニュアル	H18.4	B5	84	2,090	1,881	別

刊行物のお問い合わせ・お申し込み先

一般財団法人土木研究センター 技術研究所 庶務・広報部 梅内
〒300-2624 茨城県つくば市西沢2-2
TEL：029-864-2521 FAX：029-864-2515
E-mail：mail(a)pwrc.or.jp（※メールを送信する場合は(a)を@と変更して下さい。）
購入のお申し込みは、FAXまたはE-mailをお願いします。
また、土木研究センターのホームページ（URL：https://www.pwrc.or.jp）からも
直接申し込みできます。
なお、代金は送付する図書等に同封します請求書にてお支払い下さい。

コピーサービスの紹介

研究報告書等のコピーサービス

当センターが行った共同研究報告書、各種技術マニュアル、また土木に関する研究機関の報告書等について、コピーサービスを行っています。

研究報告等の文献リストは、当センターのホームページでご覧になれます。

ホームページ（URL：https://www.pwrc.or.jp）を開いて、「書籍・刊行物等」「コピーサービス」をクリックしていただくと文献リスト（エクセル版）が表示されます。

コピーサービスのお問い合わせ・お申し込み先

一般財団法人土木研究センター 技術研究所 庶務・広報部 中島
〒300-2624 茨城県つくば市西沢2-2
TEL：029-864-2521 FAX：029-864-2515
E-mail：mail(a)pwrc.or.jp（※メールを送信する場合は(a)を@と変更して下さい。）
購入のお申し込みは、FAXまたはE-mailをお願いします。
また、土木研究センターのホームページ（URL：https://www.pwrc.or.jp）からも
直接申し込みできます。
なお、代金は送付する図書等に同封します請求書にてお支払い下さい。

広 告 目 次

(株) 東京建設コンサルタント …… 表紙2 ハイパープレメッシュ協会 …… 表紙4
パシコ貿易 (株) …… 表紙3